

モルモットと触れ合う

老健たいよう アクティビティ 第1段

「これからも続けたい」

釧路市内の介護老人保健施設「老健たいよう」で16日、ふれあい動物園が開かれ、利用者がモルモットを抱いたりして動物に親しんだ。同施設に勤める作業療法士、桂裕二さん（39）が企画した初めての催し。

桂さんは今年、要介護高齢「イビティ・ケアを実践する」者の生活の質を高める「アクティビティ・ディレクター」



（AD）の資格を取得し、日々の業務に「文化のにおいがする介護」を吹き込もうと奮闘している。入所者が長期化し重介護化する中で、職員にとっても利用者にとっても無理のないアクティビティ活動を模索してきた。

アクティビティ第1段となったこの日は、釧路市動物園から借りてきたモルモット20匹を、中庭に設置した段ボールの囲いの中に開放し、一般棟と認知症棟の入所者、通所リハビリ利用者を含めた128人を対象として、午前から午後にあたがって時間差で順次利用者が訪れるようにした。「普段は個室からなかなか出てこない人やいつも怒ったような表情をしている人」（桂さん）も、この日は積極的に参加する姿が目立ち、モルモットをひざの上に抱え

「かわいいね」などと笑顔で浮かべていた。中には感動して涙を流す人もいた。

宮川ナミさん（92）は「めんこいね」「めんこいね」と話し掛けながらいつまでもモルモットを抱えていた。長女の吉田恵子さん（68）は「普段は、疲れたとか大儀だとか言っていますが、きょうは生き生きしています」と話していた。

桂さんは「付き添う職員にとっても、利用者が初めて見せる表情が新鮮で、新しい発見や介護の励みにつながる。それぞれの反応を聞いて毎年続けていければと思つ」と意欲を見せていた。

モルモットとの触れ合いを楽しむ入所者に話し掛ける桂さん（右）